

【投信調査室コラム】 日本版ISAの道 その3

日本版ISAに向いている投信、その商品性(分類)を考える。
本家・英国ISAファンド(ISA適格ファンド)では
ストラテジック・ボンドやミックス・インベストメントが人気。

※国際投信投資顧問 投信調査室がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

日本版ISAにはどのような商品が向いているだろうか。英国のISAは株式や投信以外に預金・債券・保険も含んでいるのだが、日本版ISAはとりあえず上場株式と公募株式投信である(*今後、公社債と公募公社債投信が加わることが期待されている)。ただ、上場株式の場合であると、年100万円と言う上限がある為、分散する場合に制約があつて、最低購入額の大きい株式は日本版ISA口座には入れにくい事となる(*「株式ミニ投資」などの単元未満取引が利用可能なら別ではあるが...)

一方で、投信は通常分散されている上、投信の最低購入額は平均13万円なので(*2012年12月末のMMFを除く投信の単純平均)、年100万円と言う上限を効果的に利用出来ると思われる。金融庁総務企画局総合政策室長が「日本版ISAには家計に長期分散投資の機会を提供するという狙いもあり、その器として投信には非常に期待している。」(2012年10月22日付ファンド情報)と言ったことも、こうしたことが背景にあると思われる。

この様に、日本版ISAに投信が適していることについてはコンセンサス(一致した意見)となっている。しかし、こと、投信の商品性(分類)となると、意見が分かれる。

主要メディアの意見をざっと挙げると、次の通りとなっている。

- ①幅広い国民に資産形成の機会を提供するという制度の趣旨からいけば、国内債投信のような低リスクファンドやバランス型ファンドなのだろうが、値動きの激しい中小型株投信や新興国株投信が向いているという人もいる(2012年10月22日付ファンド情報)
- ②英国ISAファンドのネットセールス上位にはローリスク型の商品がランクインしているので、ローリスク型商品のラインアップが必要(2012年10月1日付週刊金融財政事情)
- ③若年層などに投資家層のすそ野が広がり、毎月分配型より長期の資産形成に適した投信のニーズが高まる(2010年9月15日付日経ヴェリタス・オンライン)
- ④投資家が高齢者中心となると、大きな成長を狙うグロースファンドよりも、目先の分配が非課税となる海外債券などに投資する分配型投信に人気が集まることも予想される(2010年7月12日付週刊金融財政事情)



色々な意見があるものだが、ここで注目したいのは、②(2012年10月1日付週刊金融財政事情)の英国ISAデータ検証である。データをしっかり検証し、「ネットセールス上位にはローリスク型の商品がランクインしている」として示されているものだが。とても興味深いデータだが、同誌のデータは2007年~2009年であり、リーマン・ショック(2008年9月15日以降)で株価が急落した時でもある。代表的株価指数である英FT指数が2009年3月3日に3512.09ポンドと、2003年3月13日來安値を付け、2007年6月15日に付けた過去最高値6732.40ポンドから-47.8%も急落していた時でISAにおいてもローリスク型の商品がランクインしやすかった時期とも言える。

英国ISAで実際に保有されているファンド

ここでもデータ検証する。具体的には、英国投資運用業協会/IMAが発表した英国ISAで保有される投資信託(以下、英国ISAファンド)の最新データを見ることとする。英国ISAファンドへの2012年12月における純流入ランキングでは、1位の分類が「ミックス・インベストメント(株20～60%、英債券30%以上)」で、2位の分類は「英国ストラテジック・ボンド」、3位の分類は「グローバル高配当株」である。

2012年12月トップの「ミックス・インベストメント(株20～60%、英債券30%以上)」は前月11月も1位、2012年の年間(1月～12月)では2位、12月2位の「英国ストラテジック・ボンド」は前月11月も2位、2012年の年間(1月～12月)は1位だった。2012年12月に3位の「グローバル高配当株」は2012年10月2位、2012年の年間(1月～12月)は5位であった(*分類...IMA Sector/英国投資運用業協会分類、以下同様)。ローリスク型商品と言う感じでもない。

2012年(1月～12月)の分類別資金純流入で1位の英国ストラテジック・ボンドとは何か? それはハイイールド債を含む社債、外債、株に投資するファンドとなっている(※1)。月次の資金動向をみると、4月の課税年度末に資金純流入が急増するのは分類で共通するものの、2012年は「ミックス・インベストメント」が1月と2月に資金純流出となったのに比べて、「英国ストラテジック・ボンド」は安定的に流入が続いている。

※1: 英国ストラテジック・ボンドは米国ストラテジックインカムに名前も似ているが、戦略も似る。米国ストラテジックインカムは先進国の国債からハイイールド債、エマージング債券まで複数の債券資産クラスに分散投資するものであり、1990年代初めから存在、リーマン・ショック(2008年9月15日)後から純資産が急拡大している。モーニングスター分類ではMultisector Bond(マルチセクターボンド)、米投信協会ICI分類では古くからStrategic Income(ストラテジックインカム)として親しまれている。

英国ISA適格ファンド

次に、英国ISA適格ファンドを個別ファンドでみる。純資産ランキングでは、英国ストラテジック・ボンドの「M&G Optimal Income A Acc」が1位となった(※2)。2位と3位がともに英国高配当株で「IP High Income Inc」及び「IP Income Inc」であった。インカム重視の英国株に投資するファンドである(テーブル①参照)。

※2: 英国ISA適格ファンド…英国ISA「適格」のファンドとなるには基準があって、それは「ISAの手数料(Charges)が年1%以下、最低預入額(Access)が500ポンド以下、その他条件(Terms)として50%以上をEU取引所上場株式等に投資している事」であり、これを「fair Charges, easy Access and decent Terms」のCAT基準と言う。ISA適格ファンドは、ISA専用ファンドでないため、ISA以外で保有する分を含むその純資産はかなり大きくなるのだが、個別ファンドの商品性(分類など)は参考となろう。

テーブル①

英国ISA適格ファンドの純資産上位10

2012年12月末現在

*英ポンド建てのファンド(Oldest Share Class)。

	ファンド(クラス)名	IMA Sector (英国投資運用業協会分類)	投信会社名	設定日	純資産 (ファンド) (百万ポンド) *左記クラスの 同じグループ
1	M&G Optimal Income A Acc	英国ストラテジック・ボンド	M&G Group	2006/12/8	12,064
2	IP High Income Inc	英国高配当株	Invesco Fund Managers Limited	1988/2/6	11,889
3	IP Income Inc	英国高配当株	Invesco Fund Managers Limited	1979/6/16	9,080
4	M&G Recovery A Acc	英国株	M&G Group	1969/5/23	7,672
5	Newton Real Return GBP	絶対収益型	BNY Mellon Asset Management Ltd.	1993/8/31	7,412
6	First State Asia Pacific Ldrs A £	アジアパシフィック株(除く日本)	First State Investments (UK) Ltd	2003/12/1	7,020
7	M&G Corporate Bond A Acc	英国投資適格社債	M&G Group	1994/4/15	6,254
8	IP Corporate Bond Acc	英国投資適格社債	Invesco Fund Managers Limited	1995/7/24	5,871
9	M&G Strategic Corporate Bond A Acc	英国投資適格社債	M&G Group	2004/2/20	5,728
10	Halifax UK Growth B	英国株	HBOS Investment Fund Managers Limited	2002/9/16	5,678
	1470本	*純資産は合計、設定日は単純平均。		1999/2/4	492,350

(出所: Ibbotsonより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

分類別では、純資産1位は「英国株」、同2位は「英国高配当株」、同3位は「英国投資適格社債」、同4位は「グローバル株」、同5位は「英国ストラテジック・ボンド」となっている(テーブル②参照)。

テーブル②

英国ISA適格ファンド(*英ポンド建てのファンド)

2012年 12月末現在

分類別の純資産上位10...大分類は全8分類、ファンド本数は純資産のあるもののみ。

順位	IMA Sector (英国投資運用業協会分類)	ファンド (クラス) 本数	純資産 (百万ポンド)		大分類 (モーニングスター分類)	ファンド (クラス) 本数	純資産 (百万ポンド)		
				比率 (%)				比率 (%)	
1	英国株	195	82,543	16.77	1	株式	297,002	60.32	
2	英国高配当株	73	54,572	11.08	2	アロケーション	92,977	18.88	
3	英国投資適格社債	54	43,149	8.76	3	中長期債	89,215	18.12	
4	グローバル株	119	39,187	7.96	4	不動産	6,757	1.37	
5	英国ストラテジック・ボンド	45	29,980	6.09	5	オルタナティブ	5,213	1.06	
6	株20~60%、英ポンド30%以上	98	27,649	5.62	6	転換社債	696	0.14	
7	欧州株(除く英国)	63	22,144	4.50	7	マネーマーケット	466	0.09	
8	アジアパシフィック株(除く日本)	37	21,921	4.45	8	商品	25	0.00	
9	株40~85%、英ポンド25%以上	84	18,245	3.71					
10	北米株	51	15,487	3.15					
	全36分類計	1,425	492,350	100.00		全8分類計	1,425	492,350	100.00

(出所: Ibbotsonより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

以上は、英国ISA(適格)ファンドであり、これを英国籍ファンド全体との比較で見る。英国ISAファンド、英国ISA適格ファンド(*英ポンド建て)に英国籍ファンドを合わせた3種類のファンドについて、分類別の純資産構成比率を見た。英国のISA(株式型)において、投資対象(分類)のトレンドは既存商品と大きくは変わっていないように思われる。その中で、英国籍ファンド全体よりも英国ISAファンド及び英国ISA適格ファンドの構成比率が高い分類は、英国株、英国高配当株、英国投資適格社債、英国ストラテジック・ボンド(ハイイールド債を含む社債、外債、株に投資)、そしてミックス・インベストメント(株20~60%、英ポンド30%以上)となっていた(グラフ①参照)。

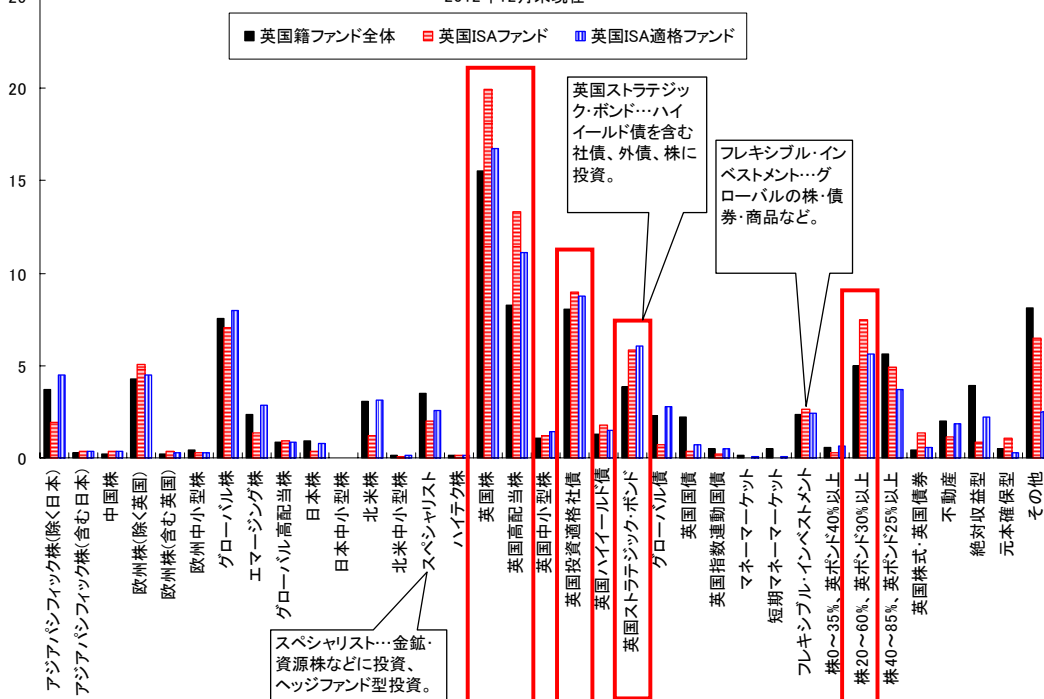
グラフ①

英国籍ファンド全体と英国ISAファンドと英国ISA適格ファンド(*英ポンド建て)の

(単位: %)

分類別純資産比率~IMA Sector(英国投資運用業協会分類)~

2012年12月末現在



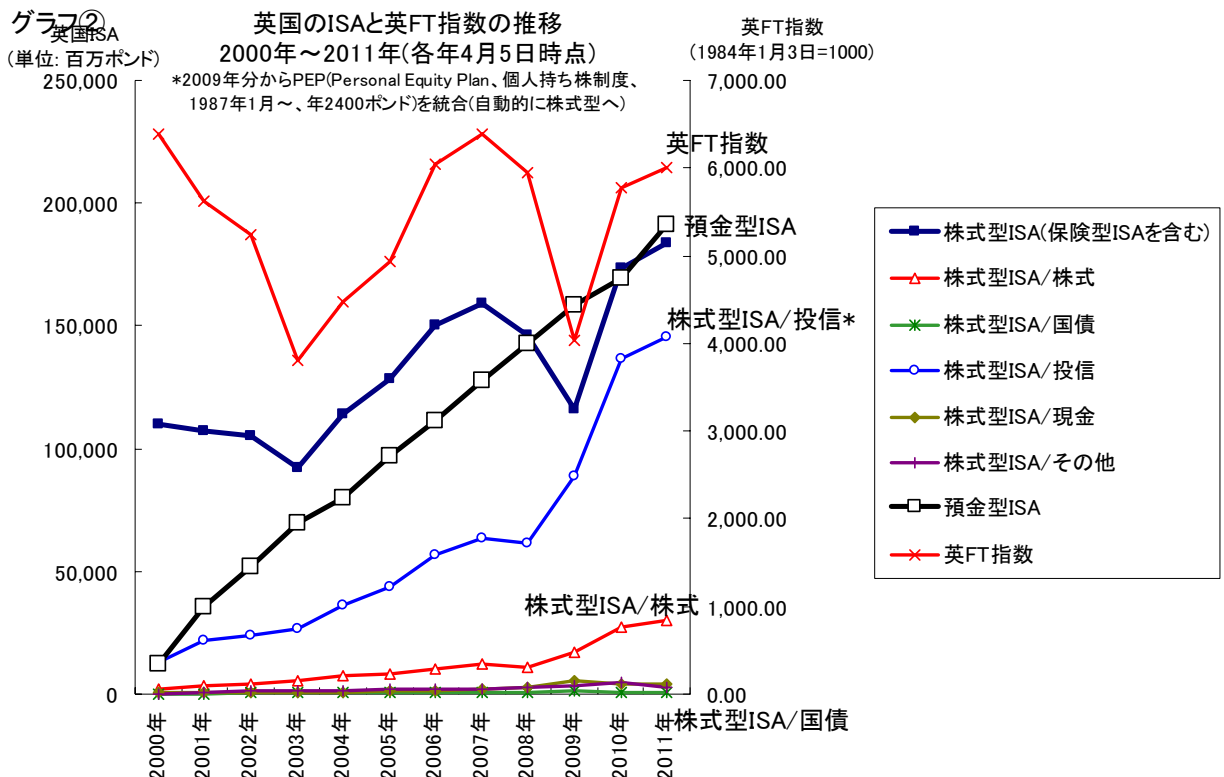
(出所: 英国投資運用業協会/IMA及びIbbotsonより 国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

もちろん、以上は英国の話であり、英国における市場環境(株価や金利水準、為替の動向)は日本の市場環境とかなり違う。その意味で、日本では日本にふさわしい商品性もあるかもしれない。それについては前回コラムの「その2」を参照のこと。

尚、最後に、英国ISAの残高推移を見ておく。参考にしてほしい。

2011年(4月5日～2011/2012課税年度末～)時点で英国のISAの残高は3748億5100万ポンド、当時の為替(1ポンド=138.30円)で約52兆円となっている。うち、預金型ISAは1914億2400万ポンド、株式型ISA(保険型ISAを含む)は1834億2700万ポンド。株式型ISA(保険型ISAを含む)で最も多いのが株式型ISA/投信で、株式型ISA/投信は1452億2800万ポンド/約20兆円となっている。預金型ISAが堅調に拡大してきたが、日本版ISAにはその預金型ISAは無い。しかし英国の株式型ISA/国債は10億1700万ポンドしかなく、「個人向け国債ばかり買って、投信に資金が向かわない」恐れ(10月22日付ファンド情報)は小さいかもれない。

英国のISAが導入された1999年と言うのはIT(情報技術)バブル華やかな時で、代表的株価指数の英FT指数は1999年12月30日に付けた6930.20と言う過去最高値まで急騰(*1999年の+17.8%まで5年連続で二桁プラスのパフォーマンス)、短期金利は政策金利で5～6%もあった。その後、株価は3年連続二桁マイナスである一方、短期金利は2008年秋まで5%前後のままであり、株式型ISA/株式は低調、預金型ISAが好調となった。その様な中でも、株式型ISA/投信はかなり健闘してきたと言える。これは日本版ISAの投信にも期待が持てる所であろう。

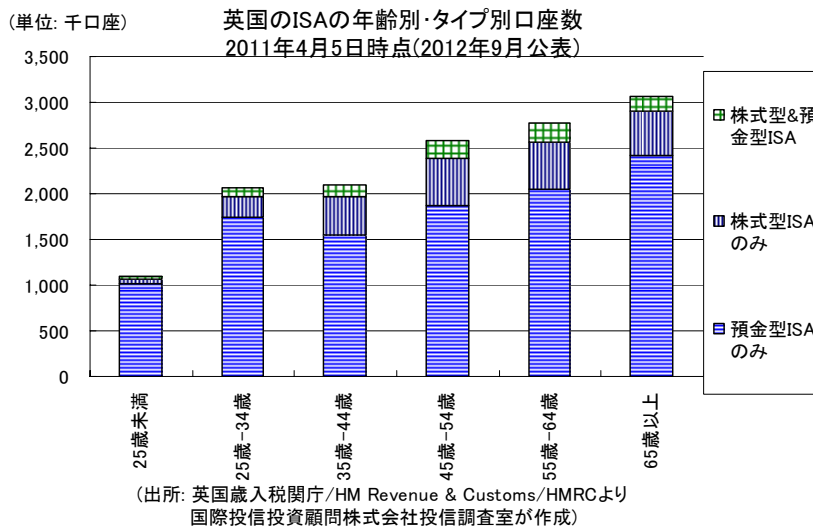


*株式型ISA/投信=ユニット・トラスト(契約型オープン・エンド・ファンド)+OEIC/オープン・エンド投資会社(会社型オープン・エンド・ファンド)+コーポレート・ボンド・ファンド+インベストメント・トラスト(会社型クローズド・エンド・ファンド)+ユー・シツツ投信/UCITS funds(契約型/会社型オープン・エンド・ファンド)

(出所:英国歳入税関庁/HM Revenue & Customs /HMRC、ブルームバーグより 国際投信投資顧問株式会社 投信調査室が作成)

さらにISAを年代別で見る。まず「英国のISAの年齢別・タイプ別口座数」を見ると、65歳以上が最も多く、次いで55歳～64歳と、年齢が高い方の口座が多い事がわかる。これは日本に有用な情報を提供してくれる可能性を示すものである。

グラフ③



また、「英国のISAの年齢別・金額別口座数」で見ると、65歳以上が最も高額な資金をISAに投じている事がわかる。

グラフ④

